

理窓会 千葉支部 教職員部会 会報

第53号

『理窓会と私 — 理窓会の更なる発展を願って —』

理窓会千葉支部 教職員部会会長

千葉県立成田北高等学校長 藤崎 俊浩



私が理窓会に参加することになったのは、平成七年頃、八街高等学校の増田重衛校長が部会長を務めていらつしやる頃です。総会での講演に興味があり、参加させていただいたことがきっかけです。その後、同窓のつながりが心地よく、また非常に

多くの刺激をいただき常連となりました。平成一二年から名簿係、平成一六年から会合係、平成二一年には事務局長としてお世話になってきました。その間、様々な職場を経験しましたが、いつの時も理窓会での諸先輩方を含め様々な人との新たな出会いがあり、多くの御支援をいただいていることに感謝するばかりです。さて、ここ数年のコロナ禍により、行動制限を経験し、リモートワーク等による働き方の変化が社会全体で起こり、教育現場でも「新たな生活様式」への対応が求められました。その状況も徐々に改善はされつつありますが、その中で私自身が感じた

ことを二つ上げたいと思います。

一つ目は、「新たな出会いと交流の大切さ」です。私に様々な人との出会いを提供してくれた理窓会の会合をはじめ、校長会議もZOOMで行われ懇親会までは実施することができていません。やむを得ないことですが、必要な情報伝達はできても新たな人間関係の構築による刺激を得ることまでは広げることができず、やはりどこか味気ないものになっていきます。そんな中で、私が勤務校のPTA会長に誘われて参加した休日の早朝ジョギングクラブでは、練習を共にして互いに刺激をし合い、知人も広がり、まさに出会いと交流による相乗効果をもたらしてくれました。リモートでは味わえない、交流の大切さを実感させてくれました。科学技術の発達により、離れていてもリモートでいろいろなことが出来るようになったのはありがたいことです。が、コロナ禍で削ぎ落されてしまった一見非合理的に思われるものの中にこそ、大切なものがあつたのだと気づかされました。今後、理窓会が若手の教職員を含め、新たな出会いの場となり、再び切磋琢磨の交流が持てることを切に願うばかりです。

二つ目は、「自己アピールの大切さ」。「言葉で伝えることの難しさ」です。これは三年生の面接指導をしていて



私自身が感じたことです。自身のアピールポイントを把握し、それをいかに的確な言葉で表現する訓練をしていくのが大切であると再認識しました。世の中は、言わなくても分かってもらえる画一化の時代から、国際化、多様化の時代に移り変わっています。自己アピールや言葉でしっかり自分の考えを伝えることは、これからの世の中で最も必要とされる力です。言わないと伝わらない世界へと出ていく生徒に対し、在学中に自らの考えを言葉にする機会を増やすことの大切を実感したところです。目まぐるしい社会の変化により、いつの時代も何かしらの新たな課題が出現し、対応に迫られる状況にあります。コロナ対応、新学習指導要領のスタートによる授業改善や観点別評価、GIGAスクール構想に基づくICT環境の整備、働き方改革、学校の教育課題が多様化・複雑化し、全教職員が一丸となって課題解決に



取り組んでいかなければなりません。そのためには、時代の変化に敏感になり、世代を超えた交流により共に自分磨きをすることが必要となります。

最後に、理窓会千葉支部のさらなる発展のために、大学当局とも協力しながら歩んでいきたいと考えています。また、皆様の御意見や新たなアイデアがあればお寄せください。会合を持っていない中で組織運営をしていただいている事務局の方々に感謝申し上げるとともに、皆でこの難局を乗り越えていきましょう。また、千葉支部教職員部会での連絡方法（会報、総会・研修会等の案内）を、メール配信に移行していきます。会報の最後にも掲載してありますが、今後唯一の連絡手段になりますので、ぜひとも積極的な登録をお願いいたします。



杉浦雅美支部長

理窓会千葉支部では、令和元年度に総会・講演会を開催して以来、コロナ禍のため会合の開催を断念し、書面による総会を行い、講演会は中止となっていました。令和4年度は3年ぶりに会合を持つことになり、8月27日（土）にポートプラザちばにて支部総会および教職員部会総会、講演会、懇親会を開催しました。大学からは浜本隆之理事長をはじめ、増渕忠行理窓会会長、また近隣都県の支部やこよう会からも来賓をお迎えし、合計41名が出席しました。

令和四年度
理窓会千葉支部
教職員部会総会・支部総会報告

十三時より教職員部会の総会があり、令和3年度の事業報告と会計・監査報告、また令和4年度の事業計画と予算案を協議し、承認されました。また新顧問として銚子商業高校校長の根本巖部会長が、新部会長として成田北高校校長の藤崎俊浩副会長が推薦されました。続いて支部総会があり、同様に事業報告と会計・監査報告、事業計画と予算案が審議され、承認されました。議事のあとは大学からの報告会として、浜本理事長から大学の近況報告がありました。



浜本隆之理事長

またビデオメッセージにより石川正敏学長からあいさつがありました。さらに増渕理窓会長からもあいさつがありました。大学は現在学部学科の再編とキャンパスの移転があり、以前の学部学科の構成とは大きく変わってきているとの

報告がありました。報告会のあとは株式会社富田製作所代表取締役社長の富田英雄氏による講演会がありました。詳細は別途記事をご覧ください。記念撮影のあと、懇親会が開かれ、3年ぶりに対面で懇親を深めました。



根本巖前部会長



懇親会の様子



講演会のあとの集合写真

令和4年8月27日(土)、千葉支部総会の講演会が開かれました。富田氏の講演会が企画されたのは令和2年度のことですが、当時、新型コロナウイルスの感染拡大により人が集まることができず、総会・講演会が中止となりま



記念講演会
「東京スカイツリー
六・三・四に挑む」
(株) 富田製作所
代表取締役社長
富田 英雄 先生

した。また翌令和3年度も同様に中止となりました。今年度、3年ぶりに総会・講演会を実施する運びとなり、ようやく念願叶った、というところですが、富田氏を講師として推薦した教職員部会顧問(令和2年度教職員部会長)の太田恭正先生から講師の紹介がありました。およそ80分の講演会が始まりました。また初の試みとして、オンラインでの公開も行いました。

富田氏が社長を務める富田製作所はスカイツリーのメインとなる柱を作った会社として知られています。他にも羽田空港D滑走路の栈橋や出雲大社の大鳥居など、様々な金属加工を担ってきました。年間売上を超える30億円の世界最大級一万六千トンプレスを導入し、厚板精密板金世界一を目指すと言います。今の御活躍を伺うと順風満帆なように思いますが、ここに至るには多くの苦勞があったそうです。富田製作所の始まりは、富田氏の父である富田大八郎氏が戦後起こした板金業でした。父は戦時中、海軍伊号潜水艦の乗組員でした。出撃の前に終戦となり、命拾いしました。貧しい生活でしたが、国の成長・発展を目の当たりにしながら

ら、母の実家の近くで会社を起し、板金世界一を目指すと言っていたそうです。高度経済成長で事務デスクが売れ、板金工場は発展とともに松戸、そして茨城・古河へと移転していきました。そこへオイルショックがあり、売上の8割がなくなり、下請会社の厳しさを味わいました。その後、富田氏が母校・東京理科大学理工学部を卒業し、富田製作所に入社しました。そして世界一の会社を目指すべく、思い切って世界最大級の一万トンプレスを導入するに至りました。

富田製作所のモノ作りでは「拝の精神」を大事にしています。この考え方は親会社であった小松フオークリフトを育てた海軍少将・栗原悦蔵の影響を受けています。父大八郎にとっては神様のような存在であった栗原悦蔵は何度も富田製作所を訪れ、経営の教えを説いたそうです。「拝の精神」とは、慎みの心、敬いの心、感謝の心を持って、真心を捧げる心であり、全てを拝む気持ちを表しています。仕事とは奉仕の行いであり、己・社会・国・天・八百万の神に対して「真心を捧げる尊い仕事」意味します。また1×1＝1の一体感、1+1＝2の協力、

心の潤滑剤や触媒の和やかな和の3つを合わせた3和の心も大切になっています。会社の組織は体の機能と同じであり、組織や器官が一体となつて協調しているようなものであると考えています。富田製作所では「良質な製品を作り、製品を通じて社会に奉仕」を経営理念の第一節に掲げています。

東京スカイツリーの柱に関わることになったのは単に技術力があつただけではありません。東京スカイツリーが建設される場所は富田氏の母の生地であり、また富田製作所発祥の地でもあります。そして当時、世界一のタワーとなる予定だったこともあり、世界一のプレスを導入した我が社でこの事業を請け負う、と決断したそうです。

本講演では富田氏が大切にしている人づくりに対する思いを熱く語っていただきました。教育は人づくりそのものですので、共感された方も多かったと思います。あつという間の80分で、三年ぶりの講演会は熱気の中で終了となりました。この模様は理窓会千葉支部ホームページに掲載したリンクから、YouTubeで公開されています。またお手持ちの端末から左の

QRコードを読み込むと、動画を聞くこともできます。ぜひ御視聴ください。



講演会記録

訃報
第六代会長
鯉淵武敏先生 御逝去

理窓会千葉支部教職員部会顧問の第六代会長（元検見川高校校長）の鯉淵武敏先生が2月2日に御逝去されました。享年95歳でした。

長年にわたり本部会の発展にとめられ、言葉では言い尽くせないほどの御支援を賜りました。またコロナ禍以前には御高齢にもかかわらず、懇親会で乾杯の御発声をいただくなど、後輩たちを激励する様子が印象的でした。
なお、4月2日に水野渉顧問、杉浦雅美支部長以下、教職員部会の有志にて、佐倉市臼井田にある臨濟宗圓應寺に墓参しました。心から御冥福をお祈りいたします。



千葉支部のメールに 「登録」ください

理窓会千葉支部教職員部会では、これまで会報の配布や総会の案内を全て郵送で行ってまいりました。作業は事務局員で担当しておりましたが、作業の負担を軽減するとともに、発送に伴うコストを抑制すること、また発信と返信を電子化することによるスピード化を目的にメール配信に移行していきます。

具体的には、役員会、研修会、総会の案内をメールにより送信し、出欠をフォームにより回答できるようにします。また、会報の発行をペーパーレス化し、理窓会千葉支部ホームページへの掲載をメールにより連絡します。他にも会員相互の役に立つことであれば、活用してまいります。運用して二年目となりますが、登録者数が少ないため、ご登録いただけると幸いです。

▼左のQRコードをスマートフォンで読みとり、メールを送信してください。返信メールが届きましたら、リンクを開いていくつかの質問に回答してください。内容は氏名や所属、卒年・学科等です。メールが届かない場合は迷惑メールに仕分けられたり、ブロックされたりしている可能性があります。



メール登録

▼QRコードが読みとれない場合は、次のアドレスにメールを送信してください。

risonuchiba@mamail.jp

件名は空欄、本文は「入会」のみにしてください。
▼こちらのメール配信サービス（マメール）は、登録者に一斉に配信する機能を有しています。いわ

ゆるメールリングリストのように相互に送り合うものではありません。維持・管理のために、月に一回程度テストメールが配信されます。
▼今号より、会報については現任教職員に配布することを終了しました。勤務先にお送りしたハガキにて会報の発行をお知らせしましたが、以後、メールにてお知らせする予定です。



令和5年度総会予定

▼8月27日（土）

ポートプラザちばにて

- 教職員部会総会 12時半より
 - 千葉支部総会 13時半より
 - 講演会
 - 講師 武内 彰 先生
- （都立日比谷高校前統括校長）

お知らせ

- 理窓会情報の発信
理窓会の情報はフェイスブックや理窓会ホームページにて公開されており、イベント等の情報についてはこちらもご覧ください。
- 懇親会 16時45分より
- 総会に参加するには、以下のようにお問い合わせください。
- ・メールに登録して案内が届いたら申込む
- ・理窓会から届くチラシにある千葉支部の連絡先に連絡する
- ・理窓会千葉支部ホームページを確認する

○若手の方、ご参加ください

理窓会千葉支部では、八月の総会で県内理窓会員の交流を図っています。理窓会ホームページに案内が掲載される予定です。また、千葉支部教職員部会では、研修会とともに若手教員の情報交換会を実施しました。今後、参加を希望される先生がいましたら会報係までお問い合わせください。
○情報をお寄せください
総会等のイベント以外にも、理

窓会員の様々な情報を、本会報を通じて紹介したいと思います。活動報告や表彰、褒章をはじめ、訃報についても情報をお寄せいただければ幸いです。紙面の限り掲載させていただきます。

TUS Alumni Association 東京理科大学 校友会 理窓会
千葉支部



新着情報

- 2022年11月01日
◎支部総会での富田英雄氏の動画
- 2022年10月19日
◎3年ぶりに総会を開催!!!

◎ HOME

事務局会報係より

皆様のご協力により、第五十二号を発行することができました。お忙しい中にも関わらず、原稿をお寄せいただいた方々に、心より

厚くお礼申し上げます。

本会報は、皆様の原稿により成り立っております。記事のご要望やご意見ご感想等をお待ちしております。また各方面で活躍されている千葉県教職員の理窓会員で、是非皆さまに紹介したい取り組みなどがありましたら自薦他薦は問いませんのでご連絡ください。

(連絡先)

茂原高校 石井 一喜
電話〇四七五(一一) 四五〇五



編集後記

本年度、会報発行を担当させていただきました。発行が遅れ、会報をお待ちいただいた皆様に大変ご迷惑をおかけいたしました。心よりお詫び申し上げます。また原稿をお寄せいただいた方々に、厚く御礼を申し上げます。

指導要領が実施されました。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的学習に取り組む態度」の3つの観点から評価することになりました。各観点でそれぞれ評価をし、観点毎の評価を合わせて最終的な評価をつけることになるので、成績処理が複雑になったように感じます。学期末は、テストの採点や提出物のチェックといった業務に加え、成績処理も複雑化されるとなると今まで以上に忙しい時期になりそうです。

大学入試における扱いが悩ましいといえ、情報の教科もあげられます。大学入学共通テストで「情報」が新設されます。しかし、北海道大学など一部国立大学では情報の配点を0点にすると予告し、それに対し情報処理学会が反発しているという話もあります。成績処理の方法や各大学における入試範囲、授業の扱いなど情報を共有していくことが大切だと考えられます。様々な学校や立場で理系教育に携わる人たちが構成されている理窓会をはじめ、いろいろな場面で情報交換や悩みの共有ができる場が増えることが、教員の働きやすさにも繋がるのではないかと期待しています。

来年度からは、新学習指導要領における数学Bの授業が始まります。「ベクトル」の代わりに「統計的な推測」の単元が入ってきました。数学科の教員であっても、「統計的な推測」の授業に不安がある人も多いと思います。また、2年次から数学Cの授業を始める学校もあると思われれます。共通テストでは「数学II、数学B、数学C」で1科目になり、数学Bと数学Cの4単元の中から3単元を選択することになります。文系大学の2次試験では数学Cの「ベクトル」の単元だけ出題範囲に指定している大学もあります。大学入試のことを考えると数学Cの授業はどのように扱えばいいのか悩ましいものになりそうです。